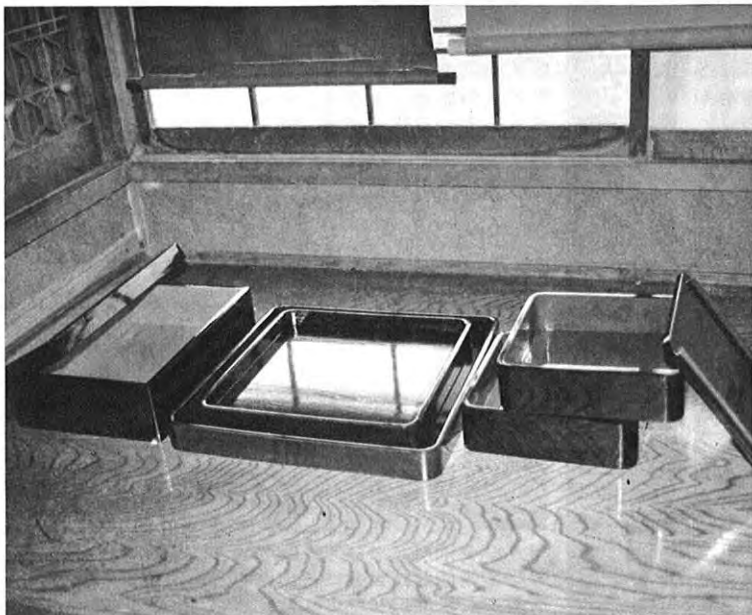


風土に根ざした伝

古来からの風土に根ざした勝れた文
です。社会的に価値のある遺跡、あるい
を掘り起し、これをひとつの地域の産
意義のあることではないでしょうか。

伝 統 工 芸



▲榎津塗を作る小原政記さんと、上は製品。四ッ角で合わせ、竹クギで継ぐので大変に丈夫です。実用一点張りのところがかえって民芸品としてのよさがあるとされています。

**えのき
榎 津 塗** 益城郡富合町

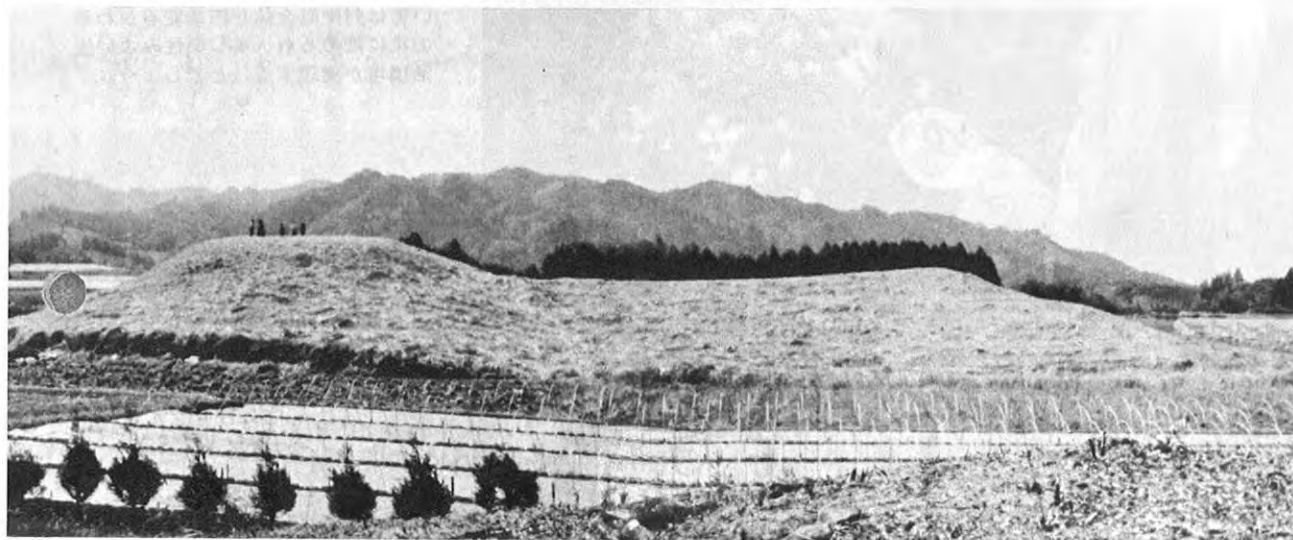
榎津塗の起こりは、安政年間（約百二十年前）で
す。明治・大正にかけ隆盛をきわめましたが、戦後
プラスチック製の器に食われ衰退、いまでは小原政
記さん（65）一人が伝統を守っています。
榎津塗は堅牢で長持ちし、剥げないのが特徴、県
下では唯一の漆器です。材料は杉や桧。
製品として、重箱やお盆・弁当・お膳などがあり
ます。
「製品がお客さんに喜んでもらえる時、本当に永
い間作っていてよかったです」と小原さんは
語っていました。

統文化を大切に

化伝統というものは大事にしたいもの
は文化の保存、野趣に満ちた伝統工芸
業として伸ばすこと。いづれも大変に

文 化 財

▼なだらかなスロープをえがく岩原古墳は古墳時代中期の典型的前方後円墳です



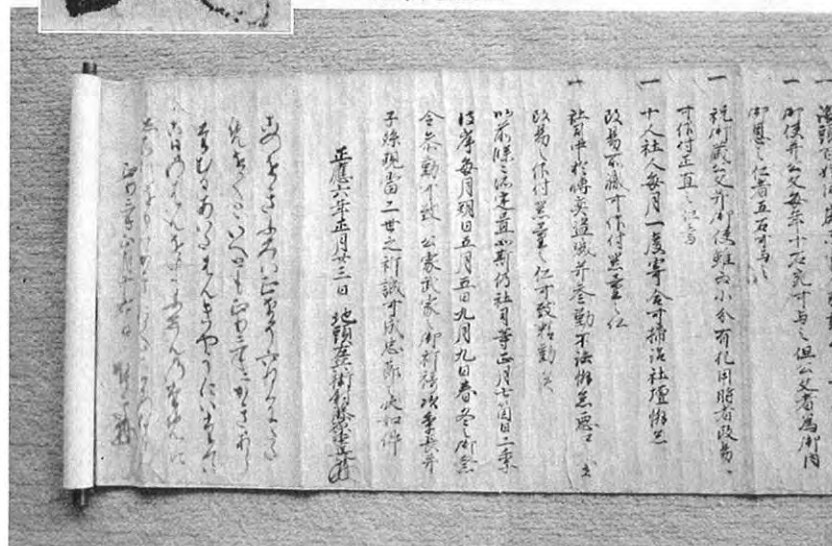
岩原古墳（鹿本郡鹿本町岩原） 一 国指定史跡 一

五世紀頃、山のように土を盛り上げた巨大な古墳が各地に築られました。
その最も代表的な古墳がここにご紹介する岩原古墳で、全長 120m、後円部の直径が57mもある雄大な前方後
円墳です。全体は緑の草原におおわれ、原形を留めています。まわりには幅17.8mもある渥の跡がはっきり残り、
盛土にはふき石や埴輪円筒の列もみられます。
山鹿・菊鹿の平野を一望に見渡す米野岳の麓に、多くの円墳にかこまれながら眠っている王者は、一体どんな
人物だったのでしょうか。（山鹿から産交バス、米野岳経由玉名線 岩原下車15分）

▼竹崎季長の花押（サイン）



▼竹崎季長置文



すえなが
竹崎季長寄進状・置文
（下益城郡小川町東海東）

一 国指定重要文化財 一
（塔福寺所蔵）

ここに掲げた古文書は、今年3月
重要文化財として国指定を受けた竹
崎季長寄進状および置文です。
今から 701年前の元寇の際奮戦し、
その名を高からしめた肥後竹崎（現
松橋町）の住人竹崎季長は、建治2
年（1276年）恩賞として得た海東郷
（現小川町）に地頭として入部しその
所領の経営にあたりました。
そして、入部後17年目の正月、季
長は菩提寺である塔福寺および海東
神社への寄進状と共に、所領経営の
基本となる置文を作成したのです。
その後この置文を正和三年（1314年）
に書き改めますが上記写真のかなか
きの部分がそれに当たります。
（季長墓所は松橋産交発海東行、北海東下車1.5キロ）